

地域公共交通網形成の課題と基本方針

平成28年11月

目次

1. 地域公共交通に係る問題と課題	1
(1) 公共交通を取り巻く環境からくる問題	1
(2) 公共交通事業に係る問題	2
(3) 地域公共交通網形成に向けた課題	4
2. 地域公共交通網形成の基本方針	5
(1) 目指すべき将来像 ～地域公共交通ビジョン～	5
(2) 施策の基本方針	6
(3) ビジョン実現に向けた地域公共交通ネットワーク	8
(4) 取組の方向性	10

1. 地域公共交通に係る問題と課題

(1) 公共交通を取り巻く環境からくる問題

① 人口減少や高齢化に伴う公共交通利用者の減少

- 人口の減少や高齢化，モータリゼーションの進行などに伴い，対象地域において運行（運航）される多くの公共交通の利用者数は減少傾向にある。
- さらに，若年層や生産年齢人口の減少は，通学・通勤目的などの流動量の減少に繋がるため，今後，公共交通の利用者の減少に拍車がかかることが懸念される。
- 特に島しょ部においては人口減少・高齢化が著しく，航路の利用者数の減少は今後も加速度的に進むことが想定できる。

② 高齢化による移動の制約

- 2015年(平成27年)の福山市における高齢化率は26.9%，笠岡市は34.8%であり，年々その値は大きくなっている。
- 一般的に，加齢に伴い歩行能力は低下する。そのため，地域の高齢化は，鉄道駅やバス停留所まで徒歩で訪れることが困難な市民の増加を促すと言え，その結果として，既存の公共交通サービスと地域の利用ニーズに大きなギャップが生じる状況が想定できる。
- 対象地域では，約6割の高齢女性が運転免許を保有していない。また単身世帯をみると，世帯主が高齢女性の場合が多く，福山市では12,842世帯，笠岡市では2,036世帯がこれに該当する。こうした状況を一因として，高齢女性では，普段の移動環境に不満を感じる方が多い。(市民アンケートより)

③ 公共交通空白地域における移動制約の深刻化

- 対象地域には，公共交通の利用が困難な公共交通空白地域が存在する。こうした地域の住民の多くは自動車で移動しているが，今後，高齢化の一層の進行により自動車の運転ができなくなる方が増加する場合，地域での暮らしが成り立たなくなる状況も想定できる。

④ 公共交通の運営を支える財源の縮小

- 今後の生産年齢人口の減少は，税収の減少に繋がり，その結果，行政サービスに必要な財源確保を困難にする。
- 路線バス，航路等，多くの公共交通は赤字運営の状況にあり，税金からの損失補填に支えられている，そのため，税収の減少は，公共交通を維持する環境を一層厳しくすることが懸念される。

(2) 公共交通事業に係る問題

① 公共交通のサービス内容に係る問題

- 市民からは、地域内（自宅の近く）を回るような、小さな需要に対応できる公共交通へのニーズが高い。（市民アンケート結果より）
しかし一方で、人口集積が少ない地域への公共交通の導入は、サービスの持続が非常に難しく、既往の乗合タクシーの利用実態をみても、全ての路線において良好とは言えない。

[福山市のみ関連]

- 福山市内の路線バスでは、頻発する道路交通渋滞の影響により、定時性の確保が困難な状況にある。（市民アンケート結果、バス事業者ヒアリング結果より）

[笠岡市のみ関連]

- 笠岡市内の路線バスでは、特に運行する便数の少なさに不満を感じる意見が多い。（市民アンケート結果より）

② 公共交通の利用・乗換環境に係る問題

- 対象地域におけるバス路線では、利用者が比較的多い停留所であっても、上屋やベンチの設置等による、良好なバス待ち環境が確保できていない箇所がある。

[福山市のみ関連]

- 福山市では、福山駅前が路線バス同士の乗換拠点として機能しているが、地域拠点間の移動（例えば南部から東部など）には、福山駅での乗換が大きな迂回を伴っており、不便を感じる利用者もいる。（バス事業者ヒアリング結果より）

[笠岡市のみ関連]

- 笠岡諸島の玄関口とも言える住吉港では、定期船待合所の老朽化に伴い、新しい施設整備を進めている（2017年（平成29年）春完成予定）。一方で、航路の活性化に向けては観光客の増加促進が不可欠であるが、笠岡駅～港湾周辺的环境整備は十分とは言えない。（航路事業者ヒアリング結果より）

③ 福山市・笠岡市間の交流に資する公共交通の問題

- 福山市と笠岡市は、互いに県境を挟む位置にあるものの、毎日多くの人が通勤等の目的で2つの市の間を移動している。さらに、笠岡市に居住し、福山市内で通院や買物等を行う市民も少なくない。（市民アンケート結果より）
- 2市の間は鉄道（JR山陽本線）が連絡しているが、路線バスについては1路線のみであり、かつ便数も十分に多いとは言えない。

④ 乗務員の不足

- 公共交通,特に路線バス事業における乗務員不足の問題は深刻であり,対象地域の事業者では各々が企業努力を推進しているものの,早期の抜本的な解決は難しいと言える。また,乗務員の高齢化も進んでおり,今後,この問題は一層大きくなる可能性がある。(バス事業者ヒアリング結果より)
- こうした乗務員不足の問題は,バス利用者の減少と相まって,利用者が少ない路線・区間におけるバス事業の維持を困難にすることが懸念されている。

(3) 地域公共交通網形成に向けた課題

今後の地域公共交通網形成に向けては、大きく「①移動サービスの確保・持続」「②利便性や利用環境の向上」「③利用促進と意識向上」の3項目を積極的に推進する必要がある。そのうち、現状の問題を踏まえて、「①移動サービスの確保・持続」を最優先課題と位置付ける。

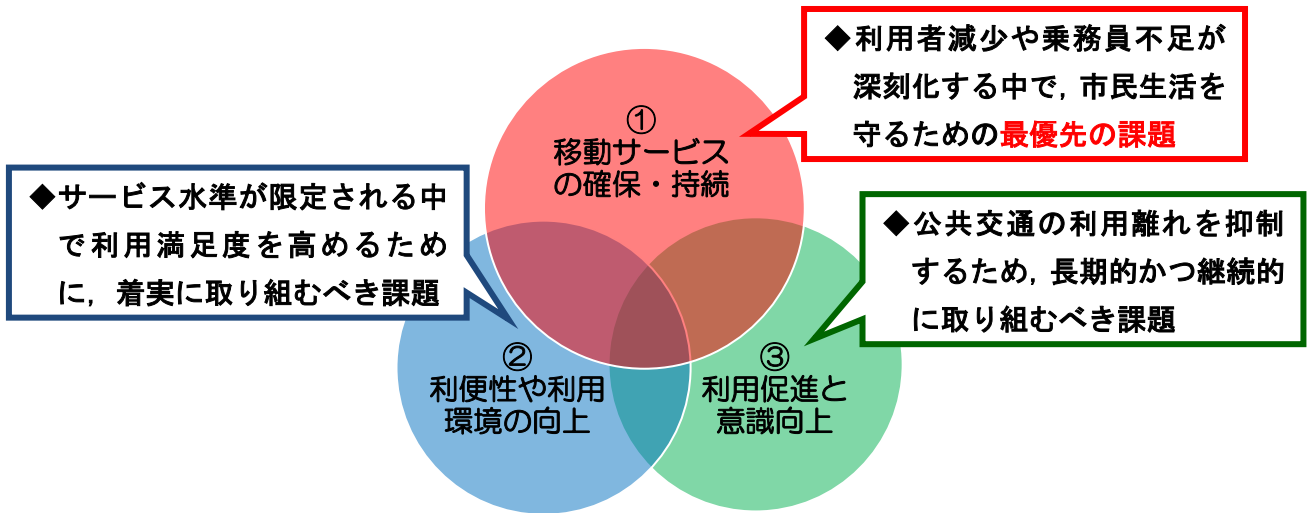
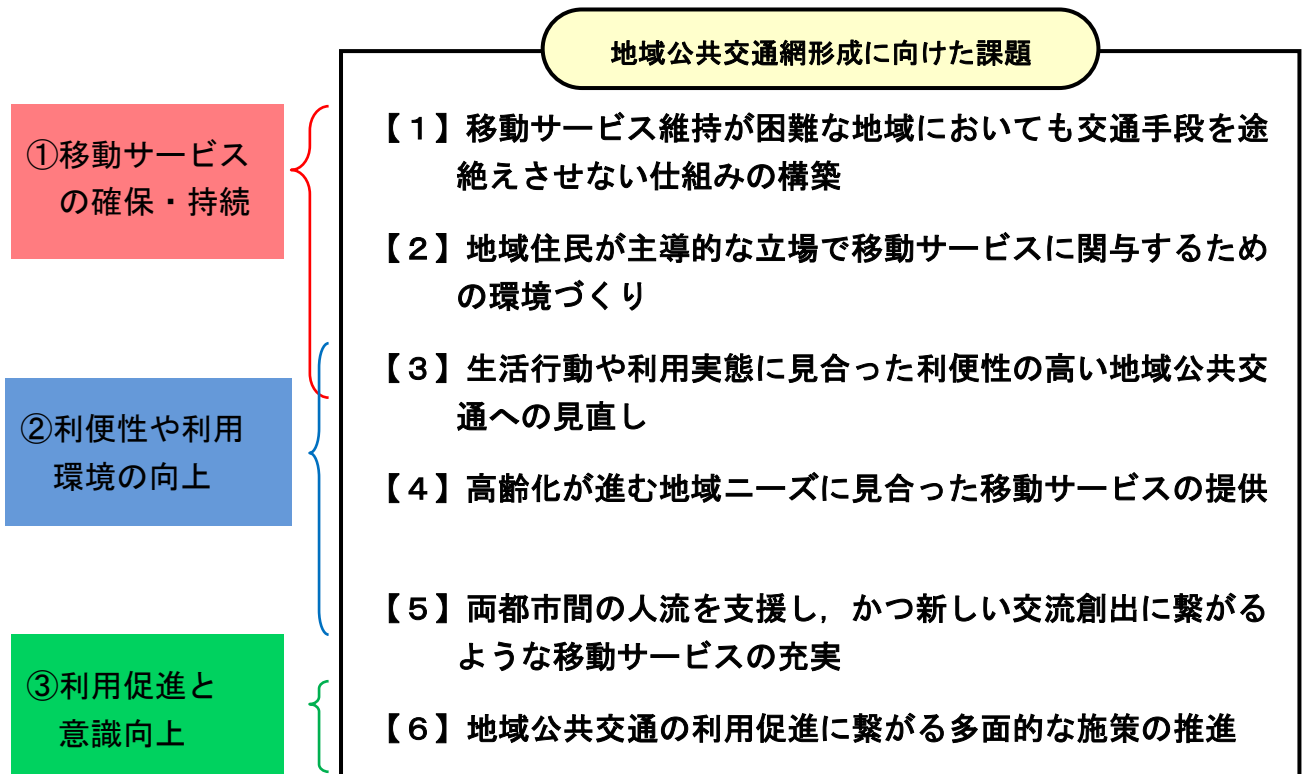


図 地域公共交通網形成に向けた3つの課題

これらをさらに、6つの具体的な課題に整理して、以下に示す。



2. 地域公共交通網形成の基本方針

(1) 目指すべき将来像 ～地域公共交通ビジョン～

対象地域を構成する福山市，笠岡市では，都市機能が集積する拠点を中心核に据えるとともに，多くの市民が地域公共交通により拠点へアクセスでき，さらには拠点間をスムーズに移動できるよう，「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方によるまちづくりを目指している。

そのため，地域公共交通は，市民生活や暮らしを支え，また，まちの活力の源泉である人の交流を支える重要な都市基盤として，行政，事業者，市民などが協働で維持，確保，活性化に取り組むことが必要である。

これを踏まえ，本計画では，地域公共交通の目指すべき将来像（地域公共交通ビジョン）を以下に定めて，その実現に取り組むものである。

<地域公共交通ビジョン>

誰もが移動しやすく，人の交流が活発になる地域公共交通の実現

(2) 施策の基本方針

地域公共交通ビジョンの実現に向けた施策の基本方針を、以下に定める。

<施策の基本方針>

①様々な交通の連携強化による効率的で利用しやすい地域公共交通網の構築

対象地域は、都市機能が集積した中心市街地、中山間の過疎地域、島しょ部など、多様な地域特性を有する。よって、各々の地域の実情に適した多様な移動サービスを運用するとともに、それぞれが有機的に連携することで、効率的で、利便性の高い地域公共交通網を構築する。

②利用者の需要に応じた持続可能な運行（運航）方法への見直し

地域公共交通ネットワークの持続を図るため、サービス水準と利用状況に著しい乖離がある場合にサービス内容を見直す流れを整える。

③多様な運行方法による過疎化・高齢化に対応した移動手段の確保

需要が小さく過疎化が進む地域では、路線バス等の公共交通を導入しても持続が困難といえる。また高齢化が進む地域では、より自宅に近い箇所での乗降が可能な移動サービスの意向が強い。こうした、過疎化・高齢化が進む地域が今後増加することを踏まえて、住民主導により、日常生活を支える移動手段を確保し、持続するための事業や仕組みを整える。

④多様な関係者と連携して多様な機会を活用した積極的な利用促進施策の推進

地域公共交通をより多くの方に活用してもらうために、利用意識の醸成（モビリティ・マネジメント）、わかりやすい情報提供など、多様な関係者と連携して多様な機会を活用した利用促進施策を展開する。

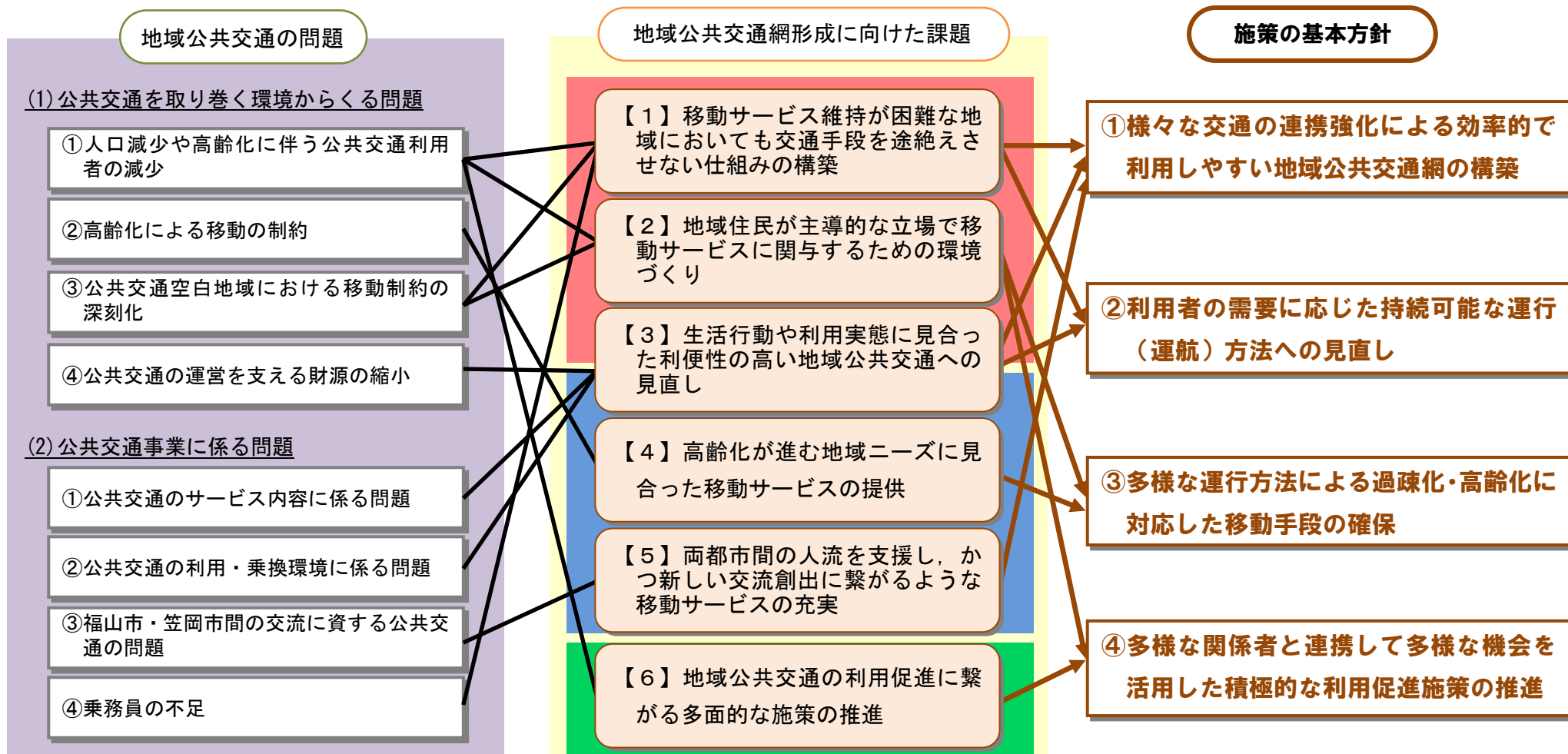


図 課題と施策の基本方針の対応

(3) ビジョン実現に向けた地域公共交通ネットワーク

ビジョン実現に向けては、地域公共交通ネットワークを構成する各モードが、それぞれの機能・役割を果たし、かつ有機的に連携する必要がある。

対象地域においては、地域公共交通ネットワークに求める機能・役割を下表のとおりと考え、それぞれのサービス維持、確保、活性化、並びにモード間連携の強化に取り組む。

表 地域公共交通ネットワークの機能・役割

区分		機能・役割
鉄 道		<ul style="list-style-type: none"> ・都市間連絡の骨格を形成し、福山市・笠岡市間や、対象地域内外の広域移動を支えるJR山陽本線、井原鉄道が該当する ・定時性や速達性に優れ、多くの人流を支える都市軸を担う ・福山駅及び笠岡駅の駅前広場は、鉄道と路線バス、路線バス同士等、モード間連携の乗り継ぎ拠点としての機能を有す
バ ス 等	幹 線	<ul style="list-style-type: none"> ・主に都市間連絡や、中心市街地と各地域の拠点とを結ぶ路線バス ・一定の便数を確保することで、多くの人流を支える都市軸を担う
	準幹線	<ul style="list-style-type: none"> ・主に中心市街地と近隣住宅地域とを結ぶ路線バス ・鉄道、幹線バスを補完して地域間移動を支えるとともに、市街地等の面的な移動をも担う
	支 線	<ul style="list-style-type: none"> ・主に各地域拠点や鉄道駅、幹線バス等と、周辺や郊外に位置する居住地・集落とを結ぶ公共交通 ・路線バス、デマンド型乗合タクシー、自家用有償旅客運送など、地域特性に応じて柔軟なモードで運行
	中心部 循環路線	<ul style="list-style-type: none"> ・都市サービスが集積する福山市の中心市街地を循環する、高いサービス水準の路線バス
	制 度	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を補完して市民の生活移動を支援する制度
航 路		<ul style="list-style-type: none"> ・島しょ部で暮らす住民の日常生活を支え、また外部から島しょ部への観光等での来訪を支える移動手段

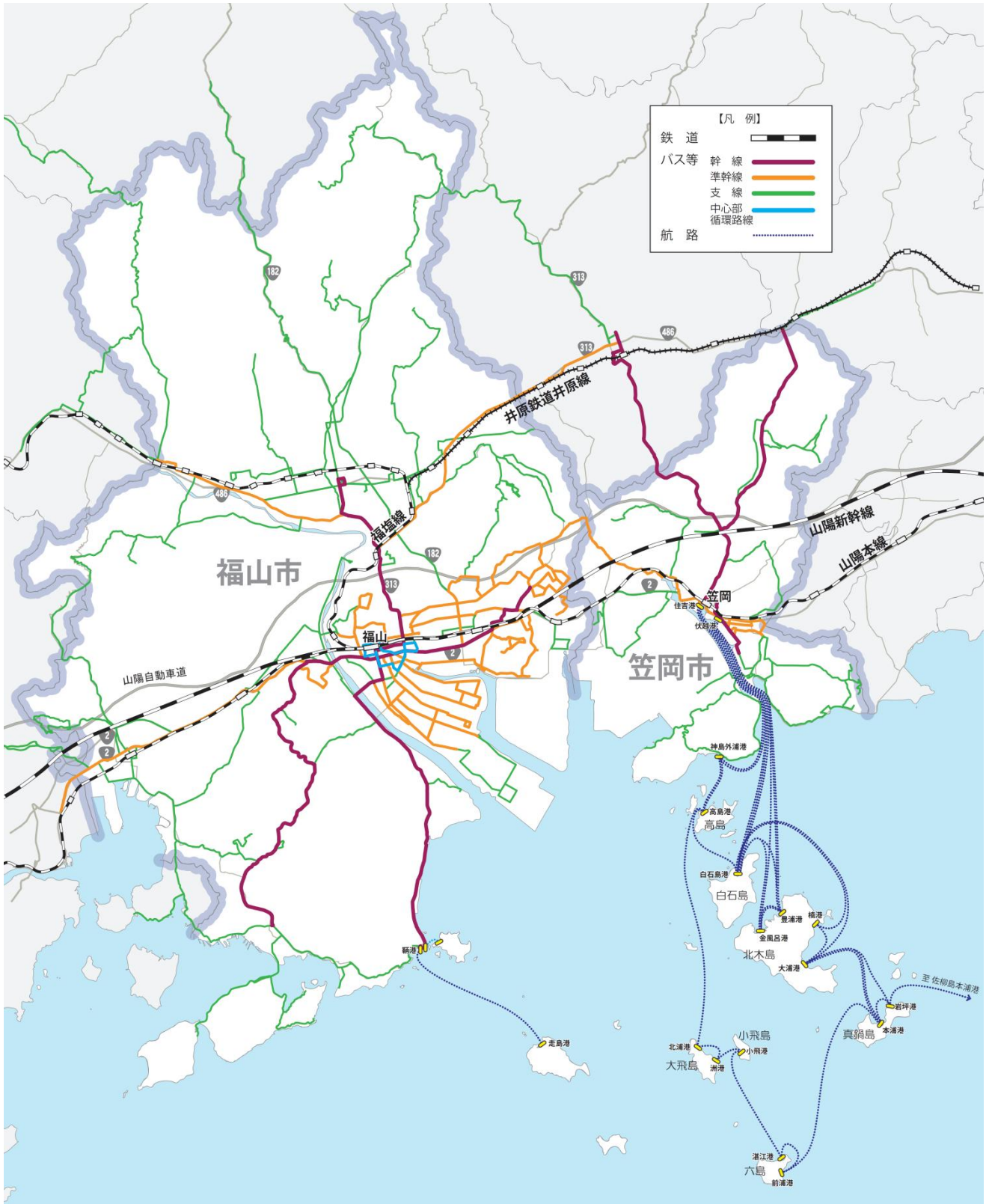


図 福山・笠岡地域における地域公共交通ネットワーク

(4) 取組の方向性

地域公共交通ビジョンの実現に向けた取組の方向性を、次に示す。

【取組の方向性 1】 地域公共交通の維持や活性化を図る

- 現行の公共交通のサービスの維持に努める。
- 運行（運航）サービスが利用者ニーズに見合わない場合、改善する。
- 福山市、笠岡市間の交流促進に繋がる公共交通の導入を検討する。

【取組の方向性 2】 地域の移動サービスを途絶えさせない

- 移動サービスを地域から無くさないために、現行の路線バス等の利用実態（移動目的、利用者数）に見合った、適切な公共交通サービスへの転換を図る。

＜検討対象とする路線＞

経常収益率等の指標を基準に、検討対象とする路線を選定する

＜小さな需要に対応可能な公共交通＞

- ・デマンド型乗合タクシー
- ・自家用有償旅客運送
- ・公共交通を補完するもの など

【取組の方向性 3】 公共交通空白地域の拡大を抑制する

- 高齢化が進む地域において、新たな公共交通の導入ニーズが生じた場合に、地域住民が主体となって導入を推進できる仕組みを構築する。

【取組の方向性 4】 待合い・乗り換え環境を整える

- 公共交通の利便性を高めるため、乗継利用を促進する制度を検討するとともに、必要な箇所において、バス停留所等の待合い環境を整備する。（上屋やベンチ等の整備、バス接近表示システムの導入など）
- 市民の移動実態を踏まえて、必要な箇所に乗り換えポイントを位置づけ、環境整備を図る。

【取組の方向性 5】 地域公共交通の利用を促す

- 市、住民、交通事業者が連携して、モビリティ・マネジメント等を通して、公共交通利用の促進、意識啓発を図る。（適切な情報提供、学校等と連携した乗り方教室、各種イベントとの連携など）
- バス利用の利便性を高めるため、笠岡市内で運行するバス路線においてＩＣカードシステムの導入を進める。